



棚に並べた状態。手でめくらなくてもタイトルは読める場合が多い。

視認性と密着性を考慮して、裏表の素材を変えてある。蓋の折り目はすぐに癖がついて収まる。蓋を折った状態でサイズは天地127mm、左右146mm。蓋の長さは最大部分で30mm。



「ミュージック・マガジン」誌編集部の場合

業界が使うのは 考え抜かれた 特別仕様の優れたもの

毎月大量のCDを集める音楽専門誌編集部でも
ビニール袋による整理が行われていた
しかもオリジナル特注品

洋邦のジャンルを問わず、あらゆるポピュラー音楽を扱う「ミュージック・マガジン」誌、東京・神保町にある同誌編集部には毎月大量のサンブルCDが集まってくる。編集部ではLP時代からこれらのディスクを整理・保管していたが、CDに切り替わって以降はその数も増える一方、事務所を拡大し、可動式の大型CDラックを導入するなどして対処してきたが、それにも限界はある。そこでプラ・ケースを外してビニール袋への移し換えを始めたのが今年の春。使っているビニール袋は、何度か試行錯誤を経て決定した特別仕様だ。どのあたりが特注かというところ、まずサイズ。高さを最小限に抑え、横幅はインレイ・カードの背を折り曲げた長さに合わせてある。またビニールの片面はツルツルで透明だが、これだとピタッとくっついてしまうので、もう片面

は半透明でざらつきのある素材にしている。蓋の中に折り込んでしまえば、持ち歩くときなどにディスクが飛び出す心配もないし、不織布の開口部を横向きに入れて入れれば、ほこり対策にもなる。

上の写真ではわかりづらいかもしれないが、背の文字が意外なほど見やすいのもありがたい。

編集部では在庫を順次入れ替えていく予定だったが、次々と増えていく新譜の入れ替え作業に追われて、立派なラックに並んだ旧譜のほうはほとんど手つかずのままだった。編集の激務をこなしながら、となると、さすがにその作業を楽しむ余裕はないようだ。

※ ビニール袋は、シンプルな構造のものに比べれば多少値が張って1枚40円。不織布無しでも注文可能。購入の問い合わせはフラッシュ・ディスクランチャ電話03-3414-0421までどうぞ。

インレイ・カード、ディスクを入れた不織布、ジャケット、キャップは重ねて収納。

